

すくすくおもちゃだより 4月



逆瀬川あゆみ保育園 子育て支援すくすく 本郷由香

2026.4.13

地階すくすくルームには、0～3歳頃のお子さんの発達に合わせた玩具を、沢山取り揃えています。今年度はこのおたよりにて、すくすくで人気の玩具の一部、紹介していきます。また私事ですが、東京おもちゃ美術館の『おもちゃコンサルタント』の資格を取得しましたので、その際に学んだ事（聞いた話）をひとことコラムとして少しお伝えしたいと思います。



回転式ドラム

手でドラムを回すと、キラキラの色板や鏡の板が回ると同時に、カラコロと音が鳴ります。回すだけ、という簡単な動きですが、それがそそられるのか、とても人気の玩具で、0～3歳まで幅広い年齢のお子さんが、よく遊ばれています。



スタックエッグ

マトリョーシカのたまごバージョン、といった玩具です。最近水道一つとっても、自動や上下の動きで水が出るなど、『ひねる』動きを経験する事が減りました。（すくすくの水道は古風にもひねりますが…）この玩具は色々なサイズのたまごをひねってパカッと開けて遊びます。中に重ねて入れたり、並べて遊んだり、とてもよく遊ばれています。



フム・フム

【1歳】をとにかく研究し続けた会社が作られた玩具です。遊びとしてはポットン落としの玩具で、色々な形の物を、入れたり出したりして楽しめます。上や下からは、出し入れしていますが、実は横からも出し入れ出来るという事に気付くと、とても嬉しそうな表情が見られます。



ひとことコラム

皆さんは、日本の郷土玩具についてご存じですか？私は、今回の学びで初めて知った事ばかりでした。そのため今回は、その話をお伝えしたいと思います。色々な郷土玩具がありますが、まずは【風車】について。風車は羽が6枚あり、米俵（こめだわら）のデザインが始まりだそうです。6枚の米俵＝「六俵」（むひょう）→無病息災という事で、子どもが持って走り回る事で、“無病息災の風を起こして病気を追い払え”という意味があるそうです。また、【さるぼこ】は病気がうつると赤くなるという事で、さるぼこへ病をうつして、子どもの身体を守るという意味があるそうです。他にも様々な玩具がありますが、そのほとんどが、子どもを病気から守る意味がある玩具だそうです。今よりも、栄養環境や衛生環境が良くなかった時代、“子どもを守る”事は、とても切実な事だったという事ですね。昔の大人達のそんな思いに気持ちを馳せつつ、郷土玩具の存在にもっと興味を持ちたい、と思いました。